

経営比較分析表（平成28年度決算）

静岡県一部事務組合下田メディカルセンター（事業会計分） 下田メディカルセンター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
指定管理者（利用料金制）	16	-	ド訓	救感輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	8,632	第2種該当	7：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

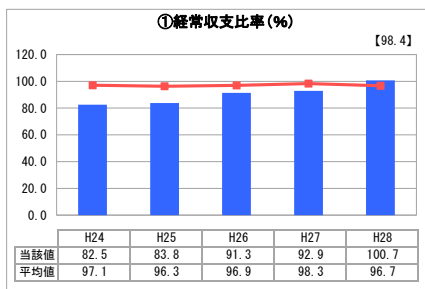
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
146	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	150
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
124	-	124

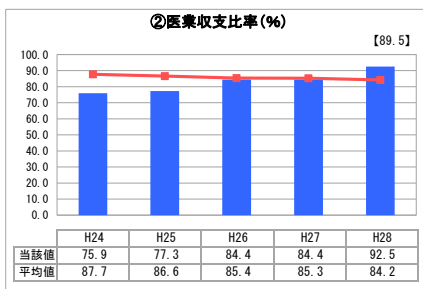
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

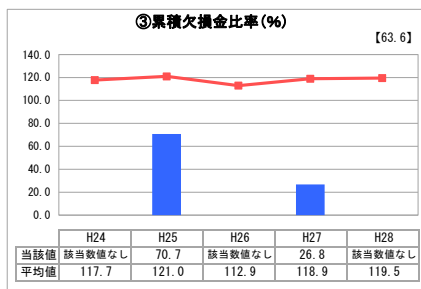
1. 経営の健全性・効率性



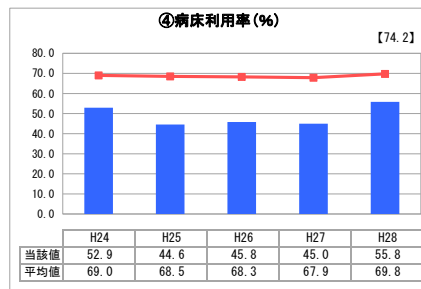
「経常損益」



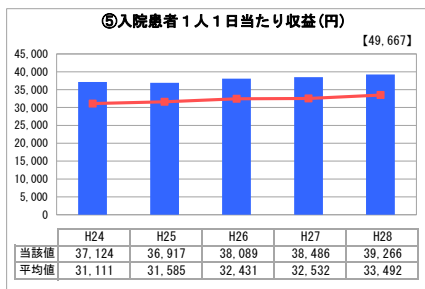
「医業損益」



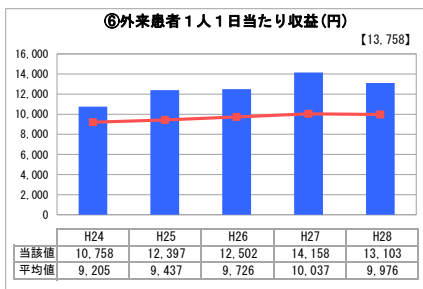
「累積欠損」



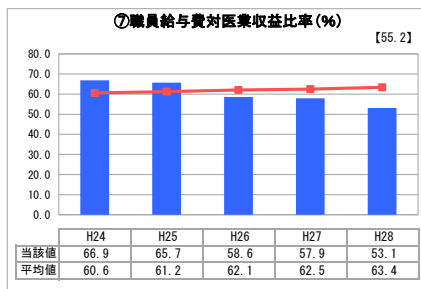
「施設の効率性」



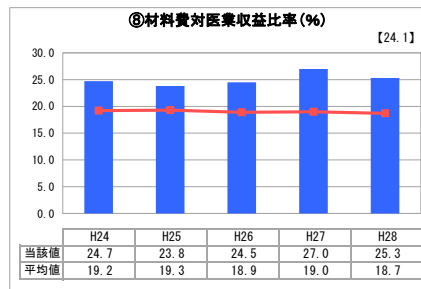
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

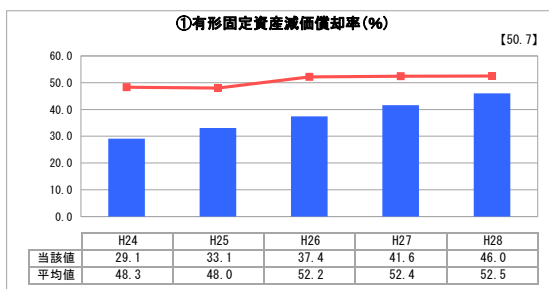


「費用の効率性①」

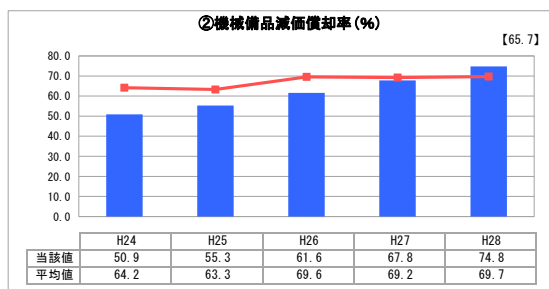


「費用の効率性②」

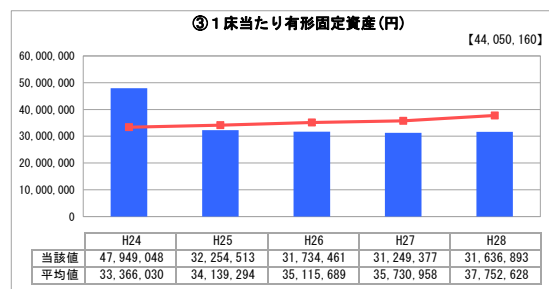
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

圏域内唯一の公立病院として、地域の中核病院としての役割を担っている。
不採算地区（半径5km以内の人口が3万人未満）において、救急医療を中心とした地域医療を提供。（第2次救急搬送件数：約4割受入）
また圏域内で今後不足するとされる回復期リハビリテーション病棟の運用開始している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

指定管理者制度・利用料金制を導入。
これにより、開股者・指定管理者双方の会計事務の効率化が図られている。また病院運営には民間の経営手法が活かされ、経常収支・医業収支ともに改善されつつある。

病床利用率は70%未満だが、新公立病院改革ガイドラインに基づき設定した下田メディカルセンター経営改善計画に沿い、改善傾向にある。材料費対医業収益比率は、下田メディカルセンター経営改善計画においても未達成であるため、同計画に基づき、さらなる改革が必要と考える。

健全経営を維持するため、万全な繰出基準の遵守に努め、該当するメニューの有無について常に検討している。

2. 老朽化の状況について

■建物

平成24年度に新築したものであり、現状では特筆すべき老朽化はないが、経年の中で老朽化は避けられないため、今後は一部事務組合下田メディカルセンター施設長寿命化計画に基づき、大規模修繕を視野に入れ、取り組む予定としている。

■機械備品

機械備品の減価償却率が高くなっているが、毎年必要な機械備品に関しては、平準化を図り、過大な投資とならない範囲内の予算措置に努め、機器更新をしている。

全体総括

本院がある賀茂医療圏は自治体間が峠で隔てられているという地理的要因から、圏域内3ブロックに存在する2次救急医療機関がそれぞれに役割を果たしている。
本院は中核病院としての責務により、圏域内の医療機関と連携を強化し、医療環境の向上に今後も努める。

経営の健全性・効率性については、入院・外来ともに患者数が増加していることに伴い、改善傾向にある。

さらに本院では、下田メディカルセンター経営改善計画に関して、毎年度事業評価委員会を開催し、項目ごとに達成率を検証し、未達成の項目を把握した上で、改善する仕組みを構築している。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。